

Vascular Street


 特集

福岡大学医学部と大学間協定を結んでいる、

韓国・啓明大学 新病院開院記念セレモニー



A



B



C



D

A : 韓国、啓明大学新病院開院式
(於、新病院玄関前ロビー)

B,C : 啓明大学新病院全景

D : 啓明大学医学部長室
(向かって左より、山本卓明教授、松永彰教授、
Bae, Jae Hoon 医学部長、朔啓二郎医学部長、
Lee, Jung Jeung 教授、Jung, Sung Won 教授)

はじめに

福岡大学と大学間協定を結んでいる韓国啓明大学の大学病院が大邱市西部地区のメインキャンパスに新しくオープンしました。私と福岡大学医学部臨床検査医学講座の松永彰教授、整形外科学講座の山本卓明教授の3名が、そのセレモニーに招待されました。地上20階、地下5階の、それは、それは、立派な病院です。啓明大学のメインキャンパスにそびえたつものでした。新病院と医学部は、韓国を代表するのみならず、世界の医療を代表する雰囲気がありました。政界の方々、米軍の方々、多くの方が招待され、セレモニーは新病院の玄関ロビーで行われました。せっかくの機会ですので、啓明大学と大邱市の位置や文化を紹介したいと思います。

啓明大学がある韓国大邱市は、韓国東南部に位置し、人口約250万人で、韓国では第4の都市、内陸性盆地型気候で京都のような気候です。4月中旬に訪問しましたが、昼は20度を超す温かさ、夜はコートが必要でした。街中の人の多さには、びっくりしますね。

ソウルから電車で約1時間40分、釜山から約45分と両主要都市へのアクセスも便利で、韓国観光の拠点としても最適です。福岡空港からは飛行機で45分程度、大邱市中央のホテルまでタクシーで20～30分です。飛行機に乗ると90%は韓国の若い学生で占められています。日本人は少ないように感じました。大邱市には地下鉄はあるのですが、交通系はかなり混雑しています。車が多いソウルと同じですね。



啓明大学は、1954年に啓明基督学館として認可され、当時の牧師さんの自宅が臨時校舎として開放されたそうです。啓明基督学校、啓明基督大学となっていくのですが、1965年には、啓明基督大学の名称が啓明大学に変更されました。医学部は比較的若い医学部ですが、発足当時の病院(大学病院の前身)は米国人医師と7名の韓国人医師からスタートしたようです。その写真が啓明大学医学部長室に飾ってあります。



市内には4つの医学部があり、一つは国立大学ですので、福岡大学医学部と同じような環境にあります。以前、医学部はドンサン医療センターと呼ばれ、市内の中央に位置してました。そこには歴史的建造物もありました。この新病院設立とともに医学部・病院全体が西部地区のメインキャンパスに移動しました。



図1は手術室の中に置いてある、ロボット(ダビンチ Xi)ですが、すべて新品です。カテ室も4室です。病院の規模から少ない感じはしましたが、すべて機器は新品でした。



図 1



図 2

図2はハイブリット手術室ですが、これも新病院の売りです。大動脈弁狭窄症の治療法の一つである TAVI (経カテーテル大動脈弁治療)などは、この手術室で行われますが、韓国ではコストパフォーマンスが悪く、現段階ではあまりポピュラーではない話がありました。

昼から、レセプションの食事会が開かれましたが、大変盛大でした(図3)。

私たちはこれが終わると、大邱市郊外にある仏教寺院、「海印寺」に連れて行ってもらったのですが、心が洗われるような雰囲気でした(図4、図5)。手で彫られた八万枚をも超える仏教木板「八万大蔵経」が、700年以上もほぼ完璧な状態で保管されています。この木板には仏教の力を借り外敵等の国難を克服、祈願されながら彫られた歴史があります。世界遺産に登録されている場所です。



図 3



図 4



図 5

その後また、医学部長主催のレセプション(図6)、前前医学部長(Kim, Sang-Pyo 教授)、前医学部長(Lee, Se-Youp 教授)、現医学部長(Bae, Jae-Hoon 教授)がわざわざこのような会食を設定していただき、その後も、大邱名物「マッチャン」(図7)を食べに連れて行ってくれました。感激です。



図6 医学部長主催レセプション



図7 大邱名物「マッチャン」



図8 啓明大学医学部



図9 韓国の独特な飲み物



Prof. Saku's Commentary

韓国大邱市は夜も眠らないアクティブな街です。また、韓国の先生方が素晴らしく熱いですね。それにしても、新病院はすばらしいモダンな建物です。吹き抜けの玄関はもったいない空間でしたが、韓国の勢いを感じました。

